

## (12月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実 績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
だいこん		12,872	100	13,953	45	133	64	5	-	千葉、神奈川産中心の入荷で全体の約9割を占める。千葉産の入荷は平年並み、年内の出荷量については天候が温暖に経過すれば、ピークとなるが、低温気味に経過すれば、なだらかな出荷となる見込み。神奈川産は生育は1週間程度遅れている。12月の出荷量は平年並み、階級はL中心となる見込み。全体の入荷量は平年並みで、価格は安値だった前年を大きく上回る見込み。
にんじん		9,905	97	9,020	73	137	107	-	-	千葉産中心の入荷で全体の約8割を占める。千葉産は干ばつ、台風の影響により、平年より2週間遅れで収穫が始まった。例年に比べ生育も遅れており、例年だと早生種の葉が黄化する時期であるが、まだ青々としている。しかし、12月には入ると本格的な出荷となることから、入荷は大豊作だった昨年を大きく下回るが、平年並みと見込まれる。全体の入荷量は平年並みで、価格は安値だった前年を大きく上回る見込み。
はくさい		14,307	100	15,904	29	138	40	-	-	茨城産中心の入荷で全体の9割を占める。茨城産は生育良好。大玉で出荷実績も昨年を上回っている。今年も豊作の状況であるが寒さの訪れが早く鍋物の引き合いが強い。12月からは出荷ピークとなり、1月まで続く見込み。全体の入荷量は前年並みで、をやや上回り、価格は前年を大きく上回る見込み。
ほうれんそう		2,061	100	2,019	335	119	415	1	0.1	群馬、埼玉を中心とする関東産が市況をリードする。埼玉産は生育が遅れ気味となっているが、12月には回復し平年並みの作柄となる見込み。群馬産は入荷が減少し豊作だった前年の8割程度と見込まれる。全体の入荷量は各産地とも面積が増えていることから前年並みを確保、価格は前年を上回る見込み。
キャベツ類		13,046	98	12,811	42	167	83	-	-	千葉、愛知産中心の入荷で全体の約7割を占める。千葉産は生育も回復し出荷ピークを迎えている。出荷量は12月下旬頃から減少する見込み。愛知産も11月は前年並みの入荷となったが、12月は天候が寒く、量的な伸びはないと予想している。今年も豊作型ではあるが寒さが厳しく玉伸びが例年より悪いので入荷は昨年を下回り、価格は安値だった前年を大きく上回る見込み。
ねぎ		6,633	98	6,589	183	137	217	95	1.4	千葉、埼玉を中心とする関東産が市況をリードする。千葉産は作付けが前年に比べ減少。生育の遅れのあり12月としては前年を下回ると予想される。埼玉産の生育は順調で入荷量は12月中旬からピークとなる見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を上回る見込み。

## (12月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実 績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平 均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
レタス類		8,651	98	7,825	161	100	230	-	-	静岡、香川、兵庫産中心の入荷で約6割を占める。静岡は豊作型で潤沢は入荷が予想される。ピークは中旬から年末にかけて。香川産は上旬は露地、中旬からはトンネル栽培が中心となる。平年より小ぶりであるが、入荷量は前年並みと予想。兵庫産は品質良好で、入荷量も前年並みとの予想。全体の入荷量は順調であるが、昨年ほどの量は出回らないとの予想から前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。
きゅうり		4,276	103	5,036	532	75	430	-	-	千葉を中心とする関東産の抑制ものに加え、高知、宮崎などの暖地産が市況をリードする。千葉産は、天候も順調で12月初めからピークを迎える見込み。量的にも前年を上回る見込み。高知産は定植の遅れから11月は前年90%の入荷だった。12月は入荷量は順調に増加し、年内いっぱい十分な量が出回る見込み。全体の入荷量は前年を上回り、価格は大幅に下回る見込み。
なす		1,384	100	1,594	443	100	426	-	-	高知産中心の入荷で全体の約6割を占める。昨年は高知産入荷減の影響で単価高となった。今年は12月は前年並みの入荷が見込まれている。全体の入荷量は反収が良いが面積の減少から前年並み、価格は前年を下回る見込み。
トマト		5,973	90	5,055	284	141	368	1	-	愛知、熊本の暖産が市況をリードする。熊本産は10月いっぱい続いた残暑の影響で作況は前年より悪い。着果のばらつきもあり、年内は前年を下回ると予想される。愛知産は、L、M中心で前年並みの入荷と見込まれる。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
ピーマン		1,571	95	1,595	425	89	401	-	-	茨城、宮崎産中心で全体の約7割を占める。茨城産は無加温栽培の出荷に加え、温室栽培の出荷も始まるため入荷は順調に増加する見込み。宮崎産は9月15日以前に定植した木の状態が悪く、入荷が減少している。入荷が増えるのは12月中旬からと見込まれる。全体の入荷は今年も西南暖地からの入荷が少なく、入荷は前年を下回り、価格も前年を下回る見込み。
ばれいしょ		7,640	105	7,289	111	81	103	-	-	北海道産中心の入荷で市況をリードする。北海道産は平年に比べ小ぶりで、出荷量は前年を下回ると予想される。入荷量は生産量が少なかった前年を上回り、価格はほぼ前年並を大きく下回る見込み。
たまねぎ		10,313	105	10,320	87	86	84	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産の作柄は概ね良好。中心サイズはLで肥大も前年より良い。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を下回る見込み。